

第2回「鹿児島港本港区エリアまちづくり検討委員会」 結果概要

1 開催日時・場所

平成30年8月30日（木）午前10時～午前11時30分
ウェルビューかごしま2階「潮騒」（鹿児島市）

2 会次第

- (1) 開会
- (2) 議事
 - ① 民間提案公募の応募状況について
 - ② グランドデザインの構成要素について
 - ③ 応募事業者との対話について
 - ④ その他

3 結果概要

- (1) 事務局から次の事項について資料に基づき説明。
 - ① 民間提案公募の応募状況について
7者から提出のあった提案概要書について、それぞれ「基本的な考え方」、「開発イメージ」、「事業スキーム」、「官民の役割分担」、「土地利用規制等の緩和」等を説明。
 - ② グランドデザインの構成要素について
昨年度の調査報告や第1回検討委員会、「かごしま未来創造ビジョン」の内容を踏まえ、グランドデザインの構成要素を「開発のコンセプト」、「土地・建物活用の方向性」、「今後の進め方」とした。
 - ③ 応募事業者との対話について
公募要項に掲げられた内容が提案内容に確実に盛り込まれているか、また、委員から出された意見等を対話を通じて確認する。

4 委員会からの主な発言（要旨）

- (1) 開発コンセプト
 - ・ 市民のためになるかどうかということがまず最初であり、市民で賑わっている所に観光客は訪れる。
 - ・ このエリアは都市の中で重要なパーツであり、事業者の声だけでなく、市民や関係者の意見を聞く必要がある。
 - ・ 天文館をはじめ周辺地区との融和性、回遊性も含めて共存・共栄できるかがポイントである。
 - ・ 離島航路が発着する場所であり、離島や島旅の魅力を発信するブースなどを設けてはどうか。
 - ・ 映像やカタログ・パンフレットだけでなく、離島を含めた県内の産品が買えたり試すことができるスペースがあるとよい。

- ・ 国内にある比較的新しい商業施設と似たようなエリアになってほしくない。逆に、鹿児島にしかない一番の特色は桜島を望む景観である。桜島を望むシアターというような視点を背骨にはいかがかと思っている。
- ・ 鹿児島の街について、平面的にだけではなく、空間的な特色・個性をきちんと把握すべき。港町の構造と桜島の景観が重要であり、それがないと他と差別化できない。
- ・ このエリアには新波止砲台があるが市民にも知られていない。歴史的価値についても、地勢を考える上で重要である。また、路面電車に乗ること自体が観光になるようにチャレンジしてもよいのではないか。
- ・ 路面電車は観光のキラークンテンツであり、市電を延伸してほしいが、軌道の道路横断により交通渋滞の懸念がある。

(2) 事業化の範囲等

- ・ ウォーターフロントパークとドルフィンポート敷地の開発が最も可能性があり、この区域が上手くいくことによって周辺も動いていくという形が望ましい。
- ・ エリア内の各区域にどういった役割を持たせるか考えることが必要である。
- ・ 開発コンセプトだけでは本港区エリア全体の活用方策は埋め切れないので、それ以外の活用も考えないといけない。
- ・ 桜島の眺望を活かすことを前提として、他地域になく既存のものと差別化できる暫定的・実験的な取組を許容するような枠組も検討できないか。
- ・ 北ふ頭の離島航路を南ふ頭に全部集約することは難しい。
- ・ 港湾機能を優先する区域と開発する区域をきちんと線引きして、丁寧に議論を進めていく必要がある。
- ・ 用途地域を緩和してほしいとの意見があるが、開発コンセプトに合致して市民の理解が得られれば、施設規模についてはある程度柔軟に対応したいと考えるが、中心市街地活性化の影響もあるので、単に用途変更により商業店舗の建築を制限なしとするのは難しいと考えており、その施設規模について御意見をいただきたい。
- ・ 事業スキームについて、リスクマネジメントの上でも、定期借地・土地売却を区域毎に分けていく必要がある。
- ・ プロジェクトプランニングの観点から、計画期間を短期、中期、長期と段階的に考えていく必要がある。
- ・ 路面電車（観光路線）の整備については、本港区エリア内の施設整備とスケジュールを合わせることが非常に重要であり、県が策定するグランドデザインにある程度の道路配置が示されないと後々の作業に支障が出る。